

第12回 BIRD 脳科学セミナー

2018年 2月27日 (火) 15:00~18:00

葛飾キャンパス 講義棟 505教室

15:00~16:30 ヒト立位姿勢・歩行のニューロメカニクス
-立って歩く神経制御メカニズムとその医工学応用-

野村 泰伸 先生 (大阪大学 大学院基礎工学研究科 教授)

ヒトが二足で立って歩くメカニズムは未だ十分には解明されていない。その解明は、加齢や疾病 (例えばパーキンソン病など運動症状を伴う神経疾患) に起因する立位・歩行機能低下の定量評価、あるいは機能改善や転倒リスク低減の方策開発に直結する。元来力学的に不安定な立位姿勢や歩行が、しなやかさと柔軟性を保ちつつ安定に実現される仕組みには脳と身体の巧妙な連携プレーが深く関わっていると考えられる。本講演では、関連する最新の研究成果を紹介するとともに、その医工学応用、および転倒リスク予測とその利活用の可能性などを展望する。

16:30~18:00 感情状態に対応した脳波活動の探索

岩城 達也 先生 (広島国際大学 総合リハビリテーション学部 教授)

人の感情状態を客観的に評価しようとする試みは、マーケティングや製品評価への応用が期待され、これまで数多くの研究がなされています。その中で、まだよくわかっていない感情現象の一つに、感情の時間変化があります。感情を喚起する刺激を与えられると、どのような時間軸で感情が高まり、また消失していくのでしょうか。主観的な感情体験は、一度喚起した感情状態は数秒から数十秒の範囲で消失していきます。一方で、感情状態と対応した脳波活動の従来知見として左右前頭部の脳波 α 波活動が指摘されています。今回は、これまでに行ってきた音楽や映像などを用いた実験から、主観的な感情の時間変化や左右前頭部の活動に注目した脳波活動との対応についてお話しします。

本セミナーは学部生、大学院生の聴講も歓迎します

主催: 脳学際研究部門 (Brain Interdisciplinary Research Division)

東京理科大学における脳研究の学際的な連携基盤の構築を目指し2016年度に発足。
学内の理一・工一・基礎工・理工・薬学部・生命研および学外の研究機関から構成される。

世話人: 基礎工学部 電子応用工学科 相川 直幸 ain@te.noda.tus.ac.jp
理工学部 教養 市川寛子 (野 3036) ichi@rs.tus.ac.jp

